

# 多様性を有する学生を対象とした大学 体育の在り方について —「異文化感受性尺度」を用いて—

## 研究の背景

### 留学生の現状と課題

- 日本の大学における留学生数は7万人を超えており(study in Japan, 2023)
- 留学生は教育機関に大きな効果をもたらす一方で、様々な課題に直面している(Mori, 2000; Smith et al., 2011; Wu, 2015)
- 大学・教員・教員育成プログラム・授業内容・サポート体制の不足(Gollnick and Chinn, 1998; Mori, 2000; Rowan et al, 2021)

### スポーツ実技の可能性と課題

- 国内のインターナショナルスクールや大学では留学生向けにスポーツ実技が必修化されている事例あり
- スポーツ実技の潜在的効果: 身体面・生活面・感情面・社交性・認知能力の向上(Bailey, 2006)
- 留学生の異文化コミュニケーション能力の促進

### 現状の問題点

- 指導者の無意識的バイアス: 主流文化の学生にのみ発言機会や賞賛を与える傾向(Gollnick and Chinn, 1998)
- 異文化からの学生の参加機会減少や批判・罰則の機会増加
- 教師の準備不足: 多様な学習者に対応するための準備や自信の欠如(Rowan et al, 2021)

### 異文化コミュニケーションの重要性

- 変化が著しい世界への適応に不可欠
- 異文化感受性は異なる文化背景を持つ人々との関わりの成功の鍵(Chen and Starosta, 1997)

## 研究の目的

### 先行研究: 日本国内での研究の二つの流れ

- 異文化間感受性尺度(ISS)を用いた研究
- 異文化感受性発達尺度(IDI)を用いた研究

### 国外の研究動向

- IDIを用いた多様な研究:
  - インターナショナルスクール高校生対象(Straffon, 2003)
  - 海外留学大学生対象(Engle et al., 2004)
  - STEMプログラム学生の4年間追跡(Jaiswal et al., 2024)
  - 小児科医修修業の異文化トレーニング効果(Altshuler et al., 2003)
- 体育教師育成プログラムでの多様性対応能力の重要性(Burden et al., 2004)
- 多分野での応用: ビジネス、マネジメント、健康、人材開発、言語、心理学、教師育成

### 本研究の目的

- 大学体育授業でのIDI研究の欠如
- 目的: 異文化感受性とスポーツ実技授業体験の関係解明
- 授業体験が身体的・精神的健康に及ぼす影響の検討

## 研究方法

### 授業概要

- 全15回授業(対面11回、オンライン4回)
- 授業時間: 90分/回
  - 前半45分: ヨガ
  - 後半45分: 各種スポーツ
- 毎回授業終了時: リフレクションシート記入(約5分)
- 授業開始時: IDI尺度回答(約30分)

### 対象者

- 関西圏大学インターナショナル学部1年生12名
- 出身国: 7カ国(アメリカ合衆国、中国、イギリス、インド、日本、ルーマニア、ベトナム)(Table I.)
- 入学時期の特徴
  - 約半数: 2022年4月入学(スポーツ実技授業経験あり)
  - 約半数: 2023年10月入学(スポーツ実技授業経験なし)
- 授業使用言語: 英語
- 研究参加: 事前説明後、自由意思による参加(不参加による不利益なし)
- IDI回答率: 100%(12名全員)

### フィードバックシート概要

実施方法: 毎週の授業終了後に記入を依頼

### 測定項目

#### 1. 当日の自己状態評価(5段階評価)

→Physical(身体的状態)、Feeling(感情状態)、Balanced Diet(食生活バランス)、Sleep(睡眠状態)

#### 2. 体育授業内活動の自己評価(4段階評価)

→Enjoy the Sport(スポーツの楽しさ)、Acquired New Skills(新しいスキルの習得)、Cooperate with Others(他者の協力)、Actively Participate(積極的な参加)、Refreshed Change of Mood(気分転換効果)

### 統計分析手法

- 対面スポーツ実技授業体験とIDI数値・身体的精神の健康の関係を解明

### 分析内容

- IDI得点と授業出席回数の関連性分析
- IDI得点と授業リフレクションの関連性分析
- 学生コンディションと授業の関連性分析

### 分析手法

- スピアマンの相関係数(rho)を使用

### 異文化感受性発達モデル(DMIS)

- Bennet(2017)によって提唱
- 個人の世界観(worldview orientation)と異文化感受性を同義的に捉える
- 文化差体験による世界観の再構築が異文化コミュニケーション能力を変化させる
- 世界観・感受性の変化を「発達的視点」から捉える特徴的理論

### 発達段階の構造(Table II.)

- 自文化中心主義的段階
  - ★ 違いの「否定」
  - ★ 違いからの「防衛」
  - ★ 違いの「最小化」
- 文化相対主義的段階
  - ★ 違いの「愛容」
  - ★ 違いへの「適応」
  - ★ 違いへの「統合」

Table II.  
DMIS 6 Continuum Stages



### 異文化感受性発達尺度(IDI)

Bennet(2014)が開発した「異文化感受性発達モデル」(DMIS)を基に作成

- Hammer et al.(2003)によって尺度化
- DMISモデルの基本概念: 異文化経験がより複雑・洗練されるほど、異文化間の潜在的能力は増加

### 測定方法

- 50問の質問項目
- 5段階評価(リッカート尺度)で回答
- 得点範囲と対応する段階(55-70: Denial, 70-85: Polarization(Defense/Denial), 85-115: Minimization, 115-130: Acceptance, 130-145: Adaptation)

## 研究結果

### 研究結果概要

授業出席状況: 対面授業実施回数: 11回・平均出席回数: 9.9±0.9回

### IDI得点と出席回数の関連

- DO得点×出席回数: 正の相関( $\rho=0.645, p=0.024$ )
- PO得点×出席回数: 有意な相関なし( $\rho=0.400, p=0.198$ )

IDI得点とリフレクションの関連: 統計的に有意な関連項目なし

### リフレクションとコンディションの関連(有意な項目)

- 「スポーツの楽しさ」関連: 1項目(Table IV.参照)
- 「新スキル習得」関連: 計8項目(Table IV.参照)
- 「他者との協力」関連: 計2項目(Table IV.参照)
- 「積極的参加」関連: 計2項目(Table IV.参照)
- 「気分転換効果」関連: 計3項目(Table IV.参照)

Table IV. Graph on the Significance between Class Reflection and Condition												
	Mean	SD	Mean									
Beginning of the semester	4.39	1.01	3.10	0.70	4.10	1.09	3.20	0.75	4.00	0.81	3.70	0.90
Mid of the semester	4.30	0.95	3.10	0.60	4.20	0.93	3.20	0.70	4.00	0.72	3.70	0.80
End of the semester	3.80	0.74	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
Beginning of the year	4.30	0.97	3.10	0.60	4.10	1.02	3.20	0.75	4.00	0.78	3.70	0.85
Mid of the year	4.20	0.91	3.10	0.60	4.10	0.93	3.20	0.70	4.00	0.72	3.70	0.70
End of the year	3.80	0.73	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
Beginning of the semester	3.80	0.93	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
Mid of the semester	3.80	0.73	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
End of the semester	3.80	0.73	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
Beginning of the year	3.80	0.93	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
Mid of the year	3.80	0.91	2.90	0.60	3.80	0.73	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
End of the year	3.80	0.73	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
Beginning of the semester	3.80	0.93	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
Mid of the semester	3.80	0.73	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
End of the semester	3.80	0.73	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
Beginning of the year	3.80	0.93	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
Mid of the year	3.80	0.91	2.90	0.60	3.80	0.73	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60
End of the year	3.80	0.73	2.90	0.60	3.80	0.70	3.00	0.60	3.60	0.60	3.30	0.60

Table V. Graph on the Significance between Class Reflection and Condition												
	Mean	SD	Mean									
Beginning of the semester	4.39	1.01	3.10	0.70	4.10	1.09	3.20	0.75	4.00	0.81	3.70	0.90
Mid of the semester	4.30	0.95	3.10	0.60	4.20	0.93						